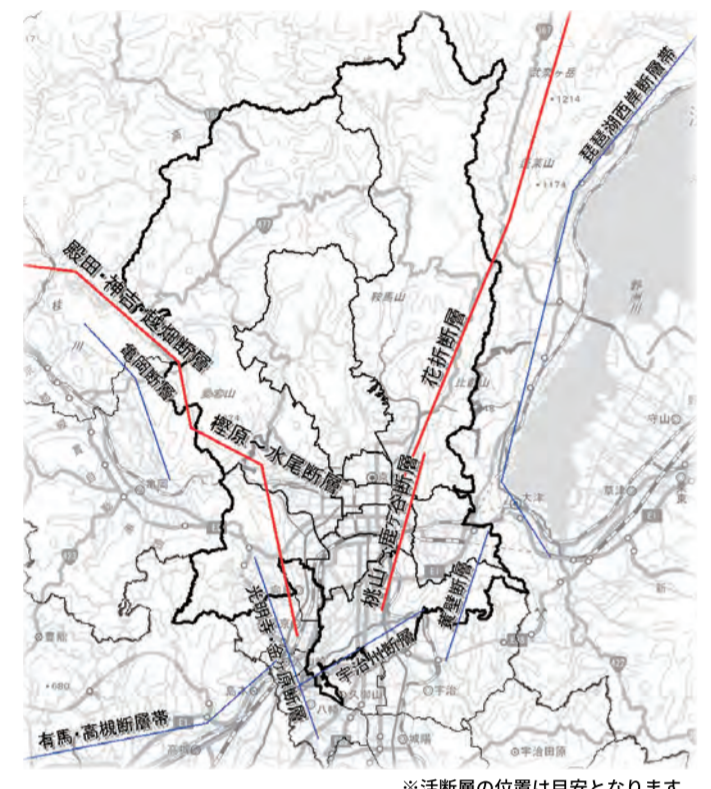


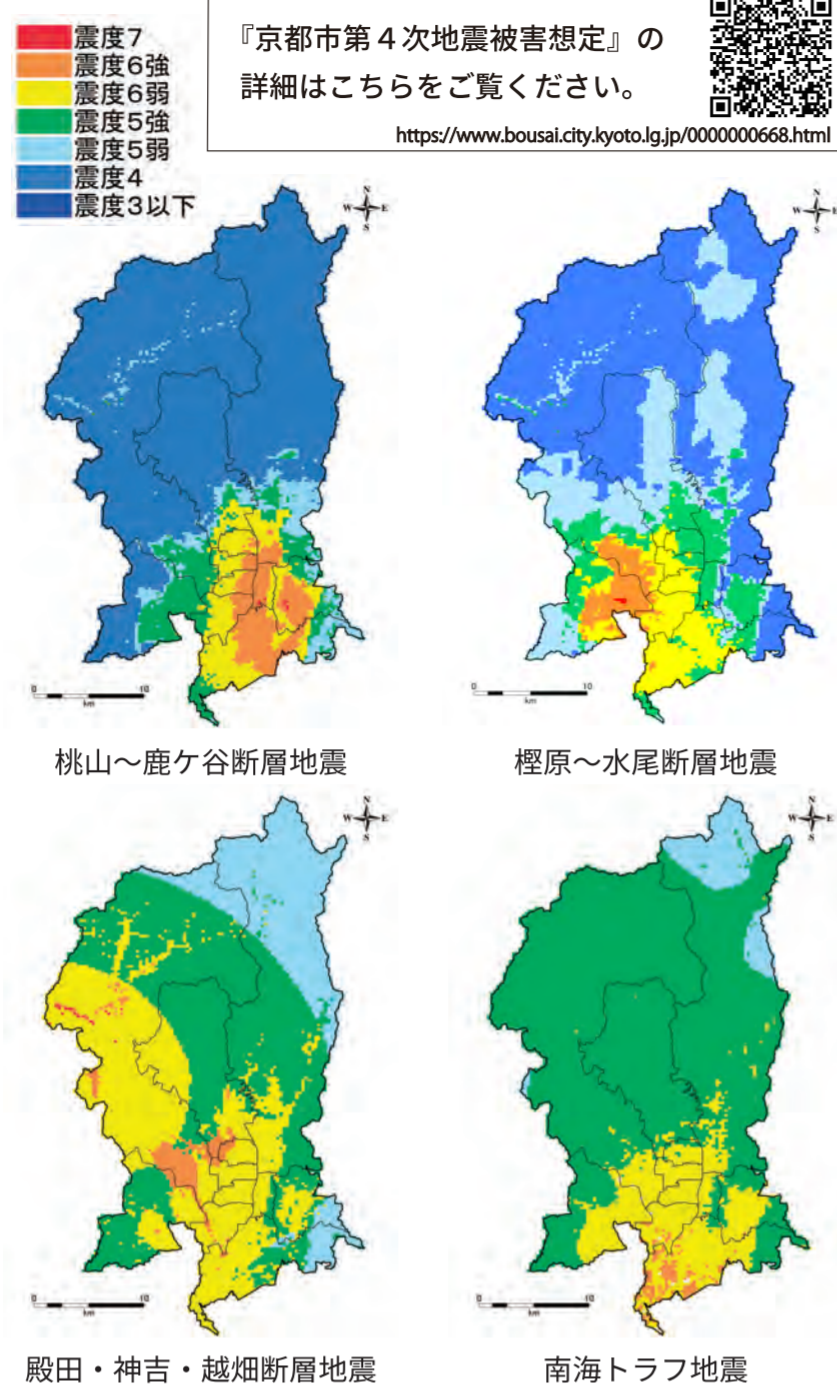
京都市に被害を及ぼす大きな地震

下の地図は、京都市周辺の活断層を示しています。『京都市第4次地震被害想定』では、京都市内で特に大きな被害が見込まれる4つの「内陸型地震（赤い線で示した活断層を震源とする地震）」と、今後30年以内に高い確率で発生するとされる「南海トラフ地震」を対象として、被害想定を行いました。

北区では、地図面に記載のとおり「花折断層地震」が、最も大きな被害をもたらすと想定されています。右の地図は、それ以外の地震が発生した場合の京都市内の震度分布を示しています。



(震度分布図)



『京都市第4次地震被害想定』の詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/0000000668.html>

もしもの災害に備えて

事前に作っておこう！
我が家の防災行動計画 マイ・タイムライン
あらかじめ作成することで、災害に備えて自分自身が取るべき行動や、日頃からの備えを事前に確認できるスケジュール表です。



区役所、支所などで配布中

防災ポータルサイトでも作成可能！



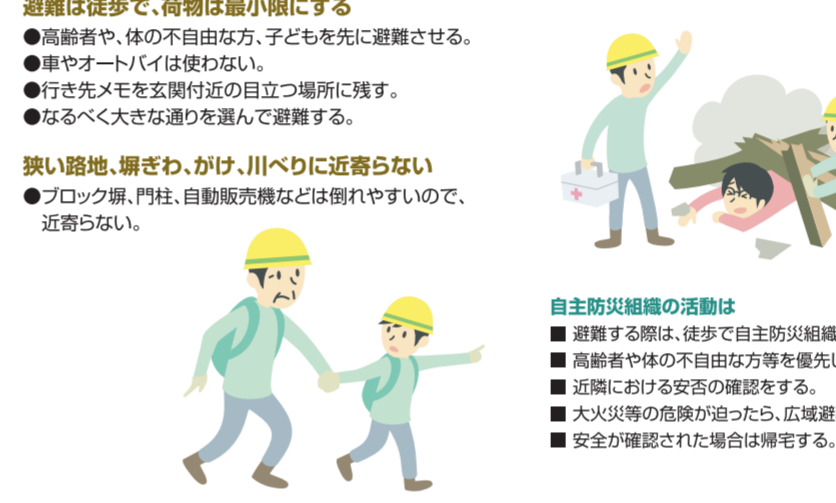
地震が起きたら

大地震が起きてても、あわてず冷静に行動することで、けがや火災から身を守ることができます。ふだんからどのような行動をとったらよいか考えておきましょう。



地震発生 → 安全の確保 → ~3分 → 家族の安全確認と初動措置 → 3~5分 → 避難準備と周辺の確認

5~10分 情報の収集と避難 → **10分~数時間** 協力して消火、救出活動 → **~3日** 外部からの救援が届くまで → **避難生活**



地震発生 → 安全の確保 → **~3分** 家族の安全確認と初動措置 → **3~5分** 避難準備と周辺の確認

5~10分 情報の収集と避難 → **10分~数時間** 協力して消火、救出活動 → **~3日** 外部からの救援が届くまで → **避難生活**

避難生活 避難生活では

地域の集合場所とは	地域住民が、近隣の安否や周辺被災状況の確認、避難誘導等の災害に対処するために集合する場所です。
広域避難場所とは	地震に伴う大規模な二次災害の危険から地域住民の生命の安全を確保できる屋外の広い場所をいいます。
避難救助拠点とは	地震に伴う大規模な二次災害が発生した場合、地域の住民に対し、災害情報の伝達、収集及び応急救護等を行う場所をいいます。
自主防災組織とは	「災害から自分たちのまちは自分たちで守ろう」という精神で、おむね学区や町内会を単位に結成された自助組織です。

非常持出品

いざという時のために、日頃から最小限の非常持出品を用意し、両手が空くリュックサックなどに入れておきましょう。また、準備した非常持出品を地域の防災訓練の際に活用しましょう。

- 一次持出品(すぐに必要なもの) 必ず必要となるもので、食料や水を3日分は用意しましょう。
●二次持出品(避難生活に必要なもの) 救援物資が届くまでの間に必要となるもので、余裕があれば用意しましょう。
・非常用食料、水、生活用品など、5日間程度の避難生活に必要なもの

家具の転倒/落下物の防止対策

阪神・淡路大震災などの大地震による負傷者のけがの原因を調べた結果、40~50%の方が家具の転倒や落下物によりけがをされています。地震によるけがを防止するため、各家庭において家具の転倒や落下物の防止対策を行うことがたいへん重要です。

- 家具転倒防止器具などの設置例
L字型金具
ベルト・チェーンタイプ
つっぱり棒
家具転倒防止板

阪神・淡路大震災などの大地震による負傷者のけがの原因を調べた結果、40~50%の方が家具の転倒や落下物によりけがをされています。地震によるけがを防止するため、各家庭において家具の転倒や落下物の防止対策を行うことがたいへん重要です。

- 家具の転倒から身を守るポイント
●寝室には、なるべく家具を置かない!
●出入口付近に家具を置かない!
●重い物ほど、たんすや本棚の下に入れる!

建物の耐震改修について

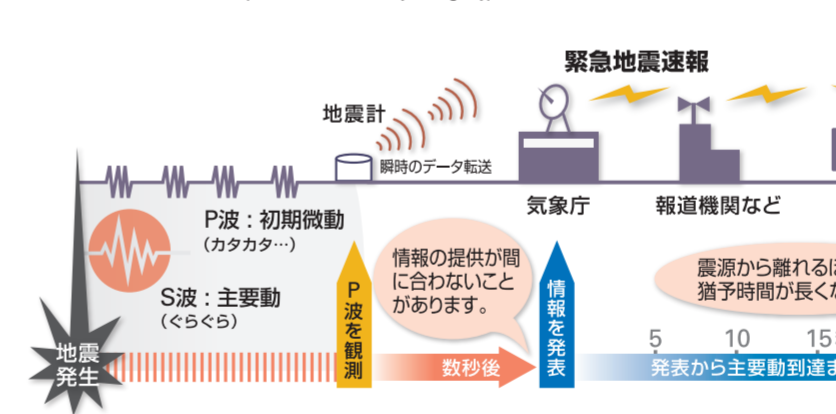
大地震による被害を最小限に抑え、あなたとあなたの家族の生命と財産を守るため、建物の耐震化を進めましょう。阪神・淡路大震災では、昭和56年以前に建てられた建物が、特に大きな被害を受けました。

- このような建物は、特に注意!!
1 昭和56年以前に建てられた建築物
2 平面形状のバランスが悪い建築物
3 断面形状のバランスが悪い建築物
4 建築物の管理や補修が不十分で経年変化が著しい建築物

1:「耐震診断」 2:「耐震改修設計」 3:「耐震改修工事」
京都府では、耐震診断、耐震改修に関するさまざまな助成制度を設けています。また、耐震改修に関する相談や専門アドバイザーの派遣事業なども行っています。

緊急地震速報について

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い観測点で検知した初期微動(P波)を解析して、大きな揺れ(S波)が迫っていることを、可能な限り早く知らせる気象庁の情報です。緊急地震速報はテレビやラジオで速報されるほか、列車の制御などにも活用されています。ただし、震源に近い地域では、速報が強い揺れに間に合わないことがあります。



緊急地震速報を見聞きしたら、地震を感じたときと同様に「あわてず、まず身の安全を!」
●家庭では、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所にまず避難する。揺れがおさまったら、あわてずに火を始末する。
●屋外では、ブロック塀に注意し、自動販売機やビルのそばに近づかない。
●自動車運転中は、ハザードランプを点灯し、急ブレーキを避け、緩やかに速度を落とす。
●鉄道/バスでは、つり革、手すりにしっかりとつかまる。

防災の知識を深める

防災ポータルサイト
マイ・タイムライン
備蓄のすすめ
帰宅困難者対策
指定避難所一覧
災害に備えた保険の加入
ペット防災
市内の浸水履歴
被災者への支援情報

いざという時の情報

地震などの災害が起きると、被災地への安否確認の電話が殺到して電話がつかなくなりになることがあります。こんな時は、「災害用伝言ダイヤル171」を利用しましょう。

災害用伝言ダイヤル171の使い方
録音する場合 171+1
再生する場合 171+2
電話が使えない場合

緊急通報先

防災に関すること	北区役所 総務・防災担当	075(432)1199	局番なし 110
消防に関すること	北消防署	075(491)4148	局番なし 119
危険宅地の防災	開発指導課	075(222)3558	075(492)3111
建築物の防災・耐震診断、耐震改修	建築安全推進課	075(222)3613	075(722)4345
すまいる耐震相談	京(みやこ)安心すまいるセンター	075(744)1631	075(222)3952
生活相談に関すること	北区役所 生活福祉課	075(432)1309	075(681)5361